

プロジェクト科目 議事録

2006年

11月

21日提出

プロジェクト科目 テーマ名 小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究			
記録者氏名 G		学生 -	
日時	2006年	11月	17日(金)
	15:00	~	18:20
場所	寧静館501		
議題 WS 企画内容の詰め			
参加者 A, C, D, E, G, H, T			
記録 <p>【会議の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 11月30日(木)の小学校での企画説明について 2. 11月14日(火)の会議内容の説明(A) 3. WS企画内容の詰め 4. WSで扱う演目をどうするか? 5. このプロジェクトの「ウリ」は何か? <p>【配布物】</p> <p>11月14日(火)の会議の議事録、能用語一覧のプリント(新編日本古典文学全集『謡曲集1』、小学館)、文書確認・訂正マニュアル(改訂版)、サイトツリー案、予定表、「歳末助け合い能」の案内プリント、金剛能楽堂公演の案内プリント</p> <p>【会議内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 11月30日(木)の小学校での企画説明について 小学校で企画説明を行うメンバーは、C・E・Hの3人に決定した。 2. 11月14日(火)の会議内容の説明(A) Eが作成した11月14日(火)の会議の議事録を参照のこと。 3. WS企画内容の詰め 火曜日の会議では、「仕舞の鑑賞」・「体験」・「観察のような鑑賞」の3つを大きな要素として取り入れ、「展示」や「仮設舞台」は取り入れないという内容の案が出された。しかし、その場に「展示」や「仮設舞台」を取り入れることに消極的なメンバーしかいなかったため、他のメンバーを交えて再度その是非について話し合うことになった。また、新 			

たな要素についても話し合った。その内容は以下の通りである。

☆ 「展示」について

T) 特定の演目に決めてWSを進めるのならば、そのストーリーに関する装束や楽器などの知識の導入は必要になってくるだろう。その方法をあえて「展示」にする必要は無いかもしれない。

⇒後で必要になるかもしれないので、今のところ保留。

☆ 「仮設舞台」について

D) そもそも、何故私が仮設舞台を必要だと考えているかということ、それが児童に能の「空間の魅力」を伝えるのに効果的だと思うからである。しかし、現実的に貧相なものになってしまう可能性は否定できない。

⇒この案は廃止で決定。

☆ 「仕舞の鑑賞」

⇒14日欠席メンバーも合意、取り入れ決定。

☆ 「観察のような鑑賞」

⇒14日欠席メンバーも合意、取り入れ決定。

☆ 「体験」

⇒14日欠席メンバーも合意、取り入れ決定。

☆ 能楽師と児童が交流できる「座談会」のようなもの

⇒14日欠席メンバーも合意、取り入れ決定。

ここまでの話し合いで、WSのおおまかな流れは

①「仕舞の鑑賞」

②「観察のような鑑賞」

③「体験」

④「座談会」

に決定した。

そして、ここからはこれらの企画に関して具体的なアイデアを出していくことになった。また、その他の要素は今後必要になったら盛り込んでいくことになった。

①「仕舞の鑑賞」について

- ・ 能楽師に、高い場所ではなく、児童の目線の位置で舞ってもらうのはどうか？
- ・ 装束をつけて舞ってもらうことはできないか？（装束の美しさ重視）
⇒紋付袴だと体の動きが見えやすく、舞の魅力がはっきりするのでは？（能楽師の動き重視）

②と③はセットとして考える

= 「観察体験」

…紋付袴で舞って頂くことに決定

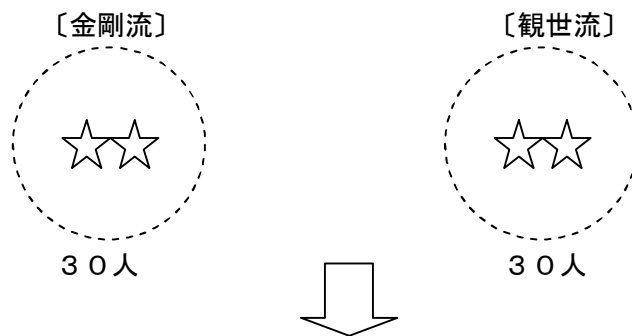
- ・ 児童が、1度教えていただいた能楽師の演技を見ることで、能に親近感を抱く効果を狙う（2回目効果）。
 - ・ 観世流・金剛流それぞれ2人ずつの能楽師が、1人は地謡、1人は仕舞を担当し、各流儀1回ずつ仕舞を舞う。
 - ・ 面を付けずに舞ってもらうことで、児童に表情の緊迫感などを感じてもらう。また、能楽師への親しみを感じてもらう。
 - ・ 児童が絨毯の上で正座して鑑賞するのはどうか？（行儀作法を意識してもらう）
 - ・ 1回の仕舞の所要時間は3分程度。
 - ・ 何か楽器を使うことはできないか？（鼓1丁、笛1管など）
⇔鳴り物（楽器）に興味を奪われてしまうのでは？動きだけでも魅了できるのでは？
- …楽器は使用しないことに決定

②・③「観察体験」について

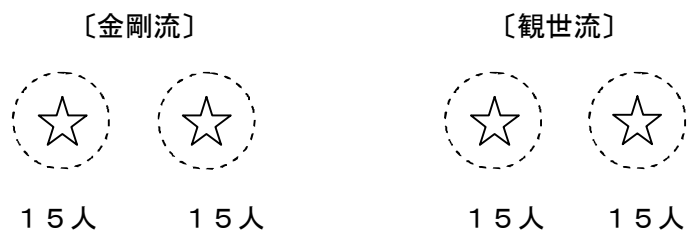
- ・ 児童が7月と1月で同じ流儀を体験できるように小学校に交渉する
- ・ 1人で15人の児童に仕舞を教えられるのか、能楽師に相談する必要がある
- ・ 発表会は行わないが、「見せ合いっこ」の時間を設ける
- ・ 能楽師の仕舞を観察した後に、児童自身が体験したい部分をリクエストする
- ・ 「体験」で仕舞を取り入れるか型（シオルなど）を取り入れるかは未定
- ・ 「観察」の後に「体験」に関する質問コーナーを設ける

※イメージ「観察」と「体験」（点線が児童、☆が能楽師。児童が能楽師を取り囲む。）

「観察」…仕舞



「体験」…型 or 仕舞



④「座談会」について

- ・ 児童が様々なことを質問できるよう、ヒントになるような事前学習プリントを作成する（あらかじめ質問を考えてもらえるように）→年内に配布する。
- ・ 能楽師と児童が直接コミュニケーションをとれる場を演出する。

4. WSで扱う演目をどうするか？

分かりやすい象徴表現が出てくる、などの理由で、今回挙げた演目は以下の通りである。

- ・ 『巴』（馬に乗る動き）
- ・ 『船弁慶』
- ・ 『藤戸』（刺される動き・溺れる動き）
- ・ 『春日龍神』
- ・ 『石橋』（獅子、派手な動き）
- ・ 『鞍馬天狗』

※ 今の時点では、①と②で同じ演目を扱うかどうかは未定だが、演目を統一すると児童の「能楽師と同じ動きをやってみたい！」という気持ちを高める効果が狙えるのではないかと。

※ 今後も能楽師に相談しながら演目探しを続けていくことが必要である。演目を探す際には、「象徴表現」を意識しつつもあまり視野を狭めないようにする。

5. このプロジェクトの「ウリ」は何か？

〔1〕 7月WSと1月WSのアピールポイントの違い

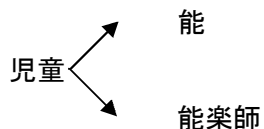
7月WS…能への興味付け。児童が能というものを認識できるようにする。

児童と能楽師が出会う。

1月WS…「鑑賞」がキーワード。春を踏まえて児童と能楽師がより近づく。

〔2〕 プロジェクト全体の「ウリ」

2つのWSで児童と能楽師さんをつなぐ……ポイントは、両者の「関係」



- ・ 他者を知ることによって自分の世界が広がる
 - ・ Face to Face の関係を通して、本当の意味で文化を伝える
- ⇒ 「出会わせる」だけではなく、「つなぐ」

【情報共有について】

今回の会議では、メンバー間での情報共有の難しさが浮き彫りになった。会議を欠席した場合は、議事録を確認する際に、疑問点があったら些細なことでも他のメンバーに聞く姿勢が必要である。

【来週の予定】

- ・ 11月21日（火）4限に金剛流能楽師 a が来校（会議場所は寧静館）。
- ・ 11月24日（金）授業時に観世流能楽師 a が来校。

【21日（火）までの課題】

会議出席者は、金剛流能楽師 a に聞きたいことを各自でリストアップしてくる。

【次回の授業までの課題】

- ・ 企画内容について各自出来る範囲で考えてくる
- ・ 取り上げたい演目をリストアップしてくる